



平成28年1月4日

各 位

会 社 名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 小 林 武 司  
(コード：2538 東証第二部)  
問合せ先 執行役員 財務計画部長 柚 義 継  
(電話番号 06-6444-5293)

**(訂正)「平成26年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について**

当社は、平成27年11月6日付適時開示「平成27年9月期決算短信の開示時期の遅延並びにこれに係る経緯として当社代表取締役会長への便宜供与に係る疑義に対する独立調査委員会の調査及び当該調査の結果を踏まえたガバナンス体制の検討等に関するお知らせ」にてお知らせしたとおり、過年度決算短信の訂正作業を進めてまいりました。

このたび、平成26年5月9日付「平成26年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の訂正作業が完了いたしましたので、訂正内容についてお知らせいたします。

訂正箇所が多数に及ぶため、訂正後及び訂正前の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には\_\_\_\_を付して表示しております。

以 上

(訂正後)



## 平成26年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年5月9日

上場会社名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2538 URL <http://www.j-fla.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 武司  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務計画部長 (氏名) 柚 義継 (TEL) 06-6444-5293  
 四半期報告書提出予定日 平成26年5月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年9月期第2四半期の連結業績 (平成25年10月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第2四半期	13,357	△0.0	327	△6.6	174	—	119	—
25年9月期第2四半期	13,361	△2.1	350	△28.4	△32	—	△154	—

(注) 包括利益 26年9月期第2四半期 119百万円(—%) 25年9月期第2四半期 △107百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第2四半期	1.76	—
25年9月期第2四半期	△2.39	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年9月期第2四半期	23,249	3,136	13.5
25年9月期	23,462	3,017	12.9

(参考) 自己資本 26年9月期第2四半期 3,136百万円 25年9月期 3,017百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	—	—	0.00	0.00
26年9月期	—	—	—	—	—
26年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年9月期の期末配当予想額については、未定であります。

### 3. 平成26年9月期の連結業績予想 (平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,000	2.9	800	—	450	—	340	—	5.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	26年9月期2Q	68,004,520株	25年9月期	68,004,520株
② 期末自己株式数	26年9月期2Q	45,826株	25年9月期	45,826株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	26年9月期2Q	67,958,694株	25年9月期2Q	64,759,437株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・配当については、業績に応じた適正な利益還元を行うことを基本方針とし、企業体質の一層の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案して決定しております。現時点においては事業環境に不透明な要因が多いことから配当予想額を未定としておりますが、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	7
4. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和政策により円安が進行し、輸出企業を中心に景気回復の兆しが見られ、また消費税率引上げに伴う駆け込み需要等により個人消費が増加しました。一方、海外景気の不透明さが引き続き国内経済を下押しするリスクとなっております。

このような状況の中、当社グループは企業理念である「食は生命」「食は安心」「食は幸せ」「食は集い」に基づいて、安心・安全を徹底するとともに、高品質な商品とサービスの提供に努めました。売上につきましては、営業体制の見直し、新規開拓の推進、新商品の導入、値上げ等を実施し収益の向上を図りました。また、売上原価につきましては、円安による原材料価格及び輸入品仕入価格の高騰が大きく影響しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は13,357百万円(前年同期比0.0%減)、営業利益は327百万円(前年同期比6.6%減)、経常利益は174百万円(前年同期は32百万円の経常損失)、四半期純利益は119百万円(前年同期は154百万円の四半期純損失)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (食品類・酒類事業)

醤油類につきましては、家庭用では一滴ずつ注げる密封ボトルを採用した小容量商品「マルキン特選丸大豆しょうゆ200ml」「マルキンさしみしょうゆ200ml」を2月に発売しましたが、主力商品が苦戦したこと等により売上が減少しました。業務用は、P B商品の新規獲得等が寄与して前期を上回ったものの全体としては売上が減少しました。

つゆ・たれ類につきましては、家庭用商品の「マルキン旨味つゆ1L」が好調の他、昨夏発売の「マルキン大阪うどんすき鍋つゆ750g」「盛田焼いて炒めてガーリックバター醤油だれ175g」等の売上が順調に推移しましたが、業務用商品が苦戦したこと等により売上が減少しました。

みりん風調味料及び料理酒につきましては、主力商品の「盛田料理酒1L」「盛田醸造みりんタイプ1L」が取引条件の見直し等により減少したものの、家庭用のP B商品及び業務用商品が好調に推移したこと等により売上が増加しました。

漬物につきましては、主力商品の「忠勇あっさり味なら漬胡瓜120g」が新規開拓等により売上が伸びたものの、需要の減少と低価格傾向の影響もあり全体では売上が減少しました。

飲料につきましては、話題の希少糖を使用した新商品「ハイピースベジウォーター500ml」を発売し、また「ハイピースノンカフェイン黒豆茶500ml」「ハイピース凍頂烏龍茶500ml」「ハイピース有機宇治茶/有機玄米ほうじ茶330ml」をリニューアルして販売施策を進めたものの、競合他社との価格競争で苦戦したことやP B商品が落ち込んだこと等により売上が減少しました。

酒類につきましては、清酒は、女性をターゲットとした桜酵母で仕込んだ純米酒「ねのひ桜酵母のお酒 なないろ桜」の300mlサイズを新たに発売しました。また、「男山大吟醸300ml/720ml/1.8L」や「盛田無濾過吟醸本生1.8L」等の特定名称酒が順調に推移しました。清酒以外では「盛田蔵出し本みりん1.8L」や焼酎、焼酎ベースのリキュール「菊弥栄ゆずゆず1.8L」等が好調で売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は7,219百万円(前年同期比3.0%減)、セグメント利益(営業利益)は235百万円(前年同期比415.0%増)となりました。

#### (輸入食品類・酒類販売事業)

業務用食材につきましては、フォアグラが低価格市場への参入に成功したこともあり全般的に好調に推移しました。また、国内メーカーとの協力関係をさらに強化した鴨肉、ケータリング用に採用されたフランス産キャビア、1月下旬に販売を開始したブリドール社(フランス)の冷凍パンが売上増加に寄与したこと等により前期の売上を上回りました。

製菓用食材につきましては、洋菓子市場が低迷する環境下において、主力商品の「Kiriクリームチーズ」は、洋菓子メーカーの定番採用やコンビニエンスストア等の中大手ユーザー開拓が順調に推移しました。また、その他商品(チョコレート、マスカルポーネ等)も新規開拓に注力したこと等により前期の売上を上回りました。

小売用商品につきましては、主力商品の「ボンヌママンジャム」は、ブランドイメージ確保のため特売回数を減らしましたが、前期並みの売上となりました。またキャビア、フォアグラ等の高額商品が好調に推移したこと等により前期の売上を上回りました。

ワイン類につきましては、主力商品の「ボランジェ」はホテル・レストランでのグラス売りを強化、問屋との取組強化及び試飲販売実施等の効果もあり好調に推移しました。また、1月より導入した新商品「キャップ・ロワイヤル」も順調に推移したこと等により前期の売上を上回りました。

この結果、当事業の売上高は5,948百万円(前年同期比8.6%増)、セグメント利益(営業利益)は205百万円(前年同期比50.6%増)となりました。

なお、平成25年4月1日の連結子会社間の合併に伴い、報告セグメントの見直しを行った結果、保有する(株)ブルーゲイツ株式の全部を平成25年2月27日付で売却したこと等によって、「水産品加工販売事業」は重要性が乏しくなり報告セグメントに含まれない「その他」に含めたため、記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、受取手形及び売掛金が261百万円、仕掛品が99百万円増加、現金及び預金が214百万円、商品及び製品が204百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ64百万円減少し11,714百万円となりました。固定資産は、無形固定資産が31百万円増加、有形固定資産が117百万円、投資その他の資産が53百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ139百万円減少し11,516百万円となりました。その結果、総資産は前連結会計年度末に比べ213百万円減少し23,249百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、支払手形及び買掛金が103百万円、1年内償還予定の社債が1,000百万円増加、短期借入金が366百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ983百万円増加し17,391百万円となりました。固定負債は、社債が1,022百万円、長期借入金が223百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,315百万円減少し2,720百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、四半期純利益119百万円により利益剰余金が増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ119百万円増加し3,136百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、214百万円減少し、948百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が181百万円及び減価償却費が178百万円あったこと等により394百万円の収入となりました。なお、前年同四半期連結累計期間と比べては、売上債権が増加したこと等により480百万円の収入減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却及び償還による収入が62百万円あったものの、有形固定資産の取得による支出が109百万円あったこと等により63百万円の支出となりました。なお、前年同四半期連結累計期間と比べては、投資有価証券の売却及び償還による収入が増加、有形固定資産の取得による支出が減少したこと等により311百万円の支出減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済（純額）が218百万円、長期借入金の返済による支出が274百万円あったこと等により551百万円の支出となりました。なお、前年同四半期連結累計期間と比べては、ファイナンス・リース債務の返済による支出が増加したこと等により73百万円の支出増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く環境は、今後も厳しい状況が続くものと予想しております。このような事業環境の中、既存の食品事業領域における着実な成長と、経営の効率化により財務体質の健全化を図ってまいります。

なお、平成25年11月8日付「平成25年9月期決算短信」にて発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。



2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失、経常損失及び当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローもマイナスとなりました。

当第2四半期連結累計期間において、営業利益、経常利益及び四半期純利益を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローもプラスになっているものの、季節変動的な要因があることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、収益改善へ向けた各施策「不採算事業を見直しコア事業への集中」「高付加価値製品の開発・販売」「コスト削減」は着実に推移しており、当社といたしましては、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,196	981
受取手形及び売掛金	4,728	4,990
商品及び製品	3,136	2,932
仕掛品	1,764	1,864
原材料及び貯蔵品	579	612
その他	404	357
貸倒引当金	△30	△23
流動資産合計	11,779	11,714
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,647	6,578
その他（純額）	2,167	2,117
有形固定資産合計	8,814	8,696
無形固定資産		
のれん	1,843	1,765
その他	82	192
無形固定資産合計	1,925	1,957
投資その他の資産		
その他	1,676	1,593
貸倒引当金	△760	△730
投資その他の資産合計	915	862
固定資産合計	11,655	11,516
繰延資産	27	18
資産合計	23,462	23,249

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,137	2,241
短期借入金	12,072	11,705
1年内返済予定の長期借入金	544	543
1年内償還予定の社債	44	1,044
未払法人税等	33	58
賞与引当金	132	150
その他	1,443	1,648
流動負債合計	16,408	17,391
固定負債		
社債	1,198	175
長期借入金	1,557	1,333
退職給付引当金	235	161
その他	1,044	1,049
固定負債合計	4,036	2,720
負債合計	20,444	20,112
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,773	2,773
資本剰余金	7,511	7,511
利益剰余金	△7,273	△7,154
自己株式	△5	△5
株主資本合計	3,006	3,125
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	12
繰延ヘッジ損益	4	—
為替換算調整勘定	△1	△1
その他の包括利益累計額合計	11	11
純資産合計	3,017	3,136
負債純資産合計	23,462	23,249

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
売上高	13,361	13,357
売上原価	9,510	9,773
売上総利益	3,850	3,583
販売費及び一般管理費	3,500	3,256
営業利益	350	327
営業外収益		
受取利息	6	4
受取配当金	1	1
持分法による投資利益	10	19
為替差益	22	34
貸倒引当金戻入額	—	4
その他	39	24
営業外収益合計	80	87
営業外費用		
支払利息	208	202
貸倒引当金繰入額	221	—
その他	33	37
営業外費用合計	463	239
経常利益又は経常損失(△)	△32	174
特別利益		
関係会社株式売却益	82	25
その他	—	5
特別利益合計	82	30
特別損失		
減損損失	—	13
事業再編損	71	—
その他	2	10
特別損失合計	74	23
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△24	181
法人税、住民税及び事業税	43	55
法人税等調整額	86	6
法人税等合計	129	62
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△154	119
少数株主利益	—	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△154	119

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	<u>△154</u>	<u>119</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	3
繰延ヘッジ損益	47	△4
為替換算調整勘定	△5	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	<u>46</u>	<u>△0</u>
四半期包括利益	<u>△107</u>	<u>119</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△107</u>	<u>119</u>
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△24	181
減価償却費	236	178
減損損失	—	13
のれん償却額	140	77
貸倒引当金の増減額(△は減少)	243	△8
賞与引当金の増減額(△は減少)	38	18
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△47	△73
持分法による投資損益(△は益)	△10	△19
受取利息及び受取配当金	△7	△5
支払利息	208	202
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△5
投資有価証券売却損益(△は益)	—	2
関係会社株式売却損益(△は益)	△82	△25
売上債権の増減額(△は増加)	365	△277
たな卸資産の増減額(△は増加)	20	21
前渡金の増減額(△は増加)	△45	△24
仕入債務の増減額(△は減少)	142	97
未払費用の増減額(△は減少)	8	78
その他	△15	135
小計	1,169	569
利息及び配当金の受取額	5	3
利息の支払額	△205	△201
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△94	23
営業活動によるキャッシュ・フロー	875	394
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
貸付金の回収による収入	15	14
投資有価証券の取得による支出	△1	△0
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	62
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△4	△9
有形固定資産の取得による支出	△371	△109
有形固定資産の売却による収入	—	35
無形固定資産の取得による支出	△31	△8
資産除去債務の履行による支出	—	△17
敷金及び保証金の差入による支出	△29	△11
敷金及び保証金の回収による収入	62	5
その他	△12	△23
投資活動によるキャッシュ・フロー	△374	△63

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△256	△218
長期借入れによる収入	—	50
長期借入金の返済による支出	△244	△274
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△22	△59
割賦債務の返済による支出	—	△27
社債の発行による収入	1,067	—
社債の償還による支出	△1,022	△22
自己株式の取得による支出	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△478	△551
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	5
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	31	△214
現金及び現金同等物の期首残高	1,962	1,163
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,994	948



(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(訂正前)



## 平成26年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年5月9日

上場会社名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2538 URL <http://www.j-fla.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 武司  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務計画部長 (氏名) 柚 義継 (TEL) 06-6444-5293  
 四半期報告書提出予定日 平成26年5月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年9月期第2四半期の連結業績(平成25年10月1日～平成26年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第2四半期	13,357	△0.0	316	△2.2	163	—	109	—
25年9月期第2四半期	13,361	△2.1	324	△33.7	△147	—	△266	—

(注) 包括利益 26年9月期第2四半期 108百万円( —%) 25年9月期第2四半期 △219百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第2四半期	1.61	—
25年9月期第2四半期	△4.11	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年9月期第2四半期	23,258	3,168	13.6
25年9月期	23,462	3,059	13.0

(参考) 自己資本 26年9月期第2四半期 3,168百万円 25年9月期 3,059百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	—	—	0.00	0.00
26年9月期	—	—	—	—	—
26年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年9月期の期末配当予想額については、未定であります。

### 3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,000	2.9	800	—	450	—	340	—	5.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	26年9月期2Q	68,004,520株	25年9月期	68,004,520株
② 期末自己株式数	26年9月期2Q	45,826株	25年9月期	45,826株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	26年9月期2Q	67,958,694株	25年9月期2Q	64,759,437株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・配当については、業績に応じた適正な利益還元を行うことを基本方針とし、企業体質の一層の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案して決定しております。現時点においては事業環境に不透明な要因が多いことから配当予想額を未定としておりますが、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	7
4. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和政策により円安が進行し、輸出企業を中心に景気回復の兆しが見られ、また消費税率引上げに伴う駆け込み需要等により個人消費が増加しました。一方、海外景気の不透明さが引き続き国内経済を下押しするリスクとなっております。

このような状況の中、当社グループは企業理念である「食は生命」「食は安心」「食は幸せ」「食は集い」に基づいて、安心・安全を徹底するとともに、高品質な商品とサービスの提供に努めました。売上につきましては、営業体制の見直し、新規開拓の推進、新商品の導入、値上げ等を実施し収益の向上を図りました。また、売上原価につきましては、円安による原材料価格及び輸入品仕入価格の高騰が大きく影響しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は13,357百万円(前年同期比0.0%減)、営業利益は316百万円(前年同期比2.2%減)、経常利益は163百万円(前年同期は147百万円の経常損失)、四半期純利益は109百万円(前年同期は266百万円の四半期純損失)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (食品類・酒類事業)

醤油類につきましては、家庭用では一滴ずつ注げる密封ボトルを採用した小容量商品「マルキン特選丸大豆しょうゆ200ml」「マルキンさしみしょうゆ200ml」を2月に発売しましたが、主力商品が苦戦したこと等により売上が減少しました。業務用は、P B商品の新規獲得等が寄与して前期を上回ったものの全体としては売上が減少しました。

つゆ・たれ類につきましては、家庭用商品の「マルキン旨味つゆ1L」が好調の他、昨夏発売の「マルキン大阪うどんすき鍋つゆ750g」「盛田焼いて炒めてガーリックバター醤油だれ175g」等の売上が順調に推移しましたが、業務用商品が苦戦したこと等により売上が減少しました。

みりん風調味料及び料理酒につきましては、主力商品の「盛田料理酒1L」「盛田醸造みりんタイプ1L」が取引条件の見直し等により減少したものの、家庭用のP B商品及び業務用商品が好調に推移したこと等により売上が増加しました。

漬物につきましては、主力商品の「忠勇あっさり味なら漬胡瓜120g」が新規開拓等により売上が伸びたものの、需要の減少と低価格傾向の影響もあり全体では売上が減少しました。

飲料につきましては、話題の希少糖を使用した新商品「ハイピースベジウォーター500ml」を発売し、また「ハイピースノンカフェイン黒豆茶500ml」「ハイピース凍頂烏龍茶500ml」「ハイピース有機宇治茶/有機玄米ほうじ茶330ml」をリニューアルして販売施策を進めたものの、競合他社との価格競争で苦戦したことやP B商品が落ち込んだこと等により売上が減少しました。

酒類につきましては、清酒は、女性をターゲットとした桜酵母で仕込んだ純米酒「ねのひ桜酵母のお酒 なないろ桜」の300mlサイズを新たに発売しました。また、「男山大吟醸300ml/720ml/1.8L」や「盛田無濾過吟醸本生1.8L」等の特定名称酒が順調に推移しました。清酒以外では「盛田蔵出し本みりん1.8L」や焼酎、焼酎ベースのリキュール「菊弥栄ゆずゆず1.8L」等が好調で売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は7,219百万円(前年同期比3.0%減)、セグメント利益(営業利益)は235百万円(前年同期比420.8%増)となりました。

#### (輸入食品類・酒類販売事業)

業務用食材につきましては、フォアグラが低価格市場への参入に成功したこともあり全般的に好調に推移しました。また、国内メーカーとの協力関係をさらに強化した鴨肉、ケータリング用に採用されたフランス産キャビア、1月下旬に販売を開始したブリドール社(フランス)の冷凍パンが売上増加に寄与したこと等により前期の売上を上回りました。

製菓用食材につきましては、洋菓子市場が低迷する環境下において、主力商品の「Kiriクリームチーズ」は、洋菓子メーカーの定番採用やコンビニエンスストア等の中大手ユーザー開拓が順調に推移しました。また、その他商品(チョコレート、マスカルポーネ等)も新規開拓に注力したこと等により前期の売上を上回りました。

小売用商品につきましては、主力商品の「ボンヌママンジャム」は、ブランドイメージ確保のため特売回数を減らしましたが、前期並みの売上となりました。またキャビア、フォアグラ等の高額商品が好調に推移したこと等により前期の売上を上回りました。

ワイン類につきましては、主力商品の「ボランジェ」はホテル・レストランでのグラス売りを強化、問屋との取組強化及び試飲販売実施等の効果もあり好調に推移しました。また、1月より導入した新商品「キャップ・ロワイヤル」も順調に推移したこと等により前期の売上を上回りました。

この結果、当事業の売上高は5,948百万円(前年同期比8.6%増)、セグメント利益(営業利益)は203百万円(前年同期比82.1%増)となりました。

なお、平成25年4月1日の連結子会社間の合併に伴い、報告セグメントの見直しを行った結果、保有する(株)ブルーゲイツ株式の全部を平成25年2月27日付で売却したこと等によって、「水産品加工販売事業」は重要性が乏しくなり報告セグメントに含まれない「その他」に含めたため、記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、受取手形及び売掛金が261百万円、仕掛品が99百万円増加、現金及び預金が214百万円、商品及び製品が204百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ67百万円減少し11,724百万円となりました。固定資産は、無形固定資産が31百万円増加、有形固定資産が105百万円、投資その他の資産が53百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ126百万円減少し11,516百万円となりました。その結果、総資産は前連結会計年度末に比べ203百万円減少し23,258百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、支払手形及び買掛金が106百万円、1年内償還予定の社債が1,000百万円増加、短期借入金が366百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,003百万円増加し17,369百万円となりました。固定負債は、社債が1,022百万円、長期借入金が223百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,315百万円減少し2,720百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、四半期純利益109百万円により利益剰余金が増加したこと等から、前連結会計年度末に比べ108百万円増加し3,168百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、214百万円減少し、948百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が171百万円及び減価償却費が165百万円あったこと等により394百万円の収入となりました。なお、前年同四半期連結累計期間と比べては、売上債権が増加したこと等により480百万円の収入減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却及び償還による収入が62百万円あったものの、有形固定資産の取得による支出が109百万円あったこと等により63百万円の支出となりました。なお、前年同四半期連結累計期間と比べては、投資有価証券の売却及び償還による収入が増加、有形固定資産の取得による支出が減少したこと等により311百万円の支出減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済（純額）が218百万円、長期借入金の返済による支出が274百万円あったこと等により551百万円の支出となりました。なお、前年同四半期連結累計期間と比べては、ファイナンス・リース債務の返済による支出が増加したこと等により73百万円の支出増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く環境は、今後も厳しい状況が続くものと予想しております。このような事業環境の中、既存の食品事業領域における着実な成長と、経営の効率化により財務体質の健全化を図ってまいります。

なお、平成25年11月8日付「平成25年9月期決算短信」にて発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。



2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失、経常損失及び当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローもマイナスとなりました。

当第2四半期連結累計期間において、営業利益、経常利益及び四半期純利益を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローもプラスになっているものの、季節変動的な要因があることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、収益改善へ向けた各施策「不採算事業を見直しコア事業への集中」「高付加価値製品の開発・販売」「コスト削減」は着実に推移しており、当社といたしましては、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,196	981
受取手形及び売掛金	4,738	4,999
商品及び製品	3,136	2,932
仕掛品	1,764	1,864
原材料及び貯蔵品	579	612
その他	407	357
貸倒引当金	△30	△23
流動資産合計	11,792	11,724
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,647	6,578
その他（純額）	2,154	2,117
有形固定資産合計	8,801	8,696
無形固定資産		
のれん	1,843	1,765
その他	82	192
無形固定資産合計	1,925	1,957
投資その他の資産		
その他	1,654	1,568
貸倒引当金	△738	△706
投資その他の資産合計	915	862
固定資産合計	11,642	11,516
繰延資産	27	18
資産合計	23,462	23,258

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,127	2,233
短期借入金	12,072	11,705
1年内返済予定の長期借入金	544	543
1年内償還予定の社債	44	1,044
未払法人税等	33	57
賞与引当金	132	150
その他	1,410	1,633
流動負債合計	16,365	17,369
固定負債		
社債	1,198	175
長期借入金	1,557	1,333
退職給付引当金	235	161
その他	1,044	1,049
固定負債合計	4,036	2,720
負債合計	20,402	20,089
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,773	2,773
資本剰余金	7,511	7,511
利益剰余金	△7,231	△7,122
自己株式	△5	△5
株主資本合計	3,048	3,157
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	12
繰延ヘッジ損益	4	—
為替換算調整勘定	△1	△1
その他の包括利益累計額合計	11	11
純資産合計	3,059	3,168
負債純資産合計	23,462	23,258

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
売上高	13,361	13,357
売上原価	9,536	9,776
売上総利益	3,825	3,581
販売費及び一般管理費	3,501	3,264
営業利益	324	316
営業外収益		
受取利息	6	4
受取配当金	1	1
持分法による投資利益	10	19
為替差益	22	34
その他	38	30
営業外収益合計	79	89
営業外費用		
支払利息	208	202
貸倒引当金繰入額	305	—
その他	37	39
営業外費用合計	550	242
経常利益又は経常損失(△)	△147	163
特別利益		
関係会社株式売却益	82	25
その他	—	5
特別利益合計	82	30
特別損失		
減損損失	—	13
事業再編損	71	—
その他	2	10
特別損失合計	74	23
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△139	171
法人税、住民税及び事業税	40	55
法人税等調整額	86	6
法人税等合計	126	61
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△266	109
少数株主利益	—	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△266	109

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	<u>△266</u>	<u>109</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6	3
繰延ヘッジ損益	47	△4
為替換算調整勘定	△5	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	<u>46</u>	<u>△0</u>
四半期包括利益	<u>△219</u>	<u>108</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△219</u>	<u>108</u>
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	<u>△139</u>	<u>171</u>
減価償却費	236	<u>165</u>
減損損失	—	13
のれん償却額	140	77
貸倒引当金の増減額(△は減少)	<u>327</u>	<u>△11</u>
賞与引当金の増減額(△は減少)	38	18
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△47	△73
持分法による投資損益(△は益)	△10	△19
受取利息及び受取配当金	△7	△5
支払利息	208	202
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△5
投資有価証券売却損益(△は益)	—	2
関係会社株式売却損益(△は益)	△82	△25
売上債権の増減額(△は増加)	<u>361</u>	<u>△277</u>
たな卸資産の増減額(△は増加)	20	21
前渡金の増減額(△は増加)	△45	△24
仕入債務の増減額(△は減少)	<u>167</u>	<u>99</u>
未払費用の増減額(△は減少)	<u>7</u>	78
その他	<u>△4</u>	<u>159</u>
小計	<u>1,169</u>	<u>569</u>
利息及び配当金の受取額	5	3
利息の支払額	△205	△201
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△94	23
営業活動によるキャッシュ・フロー	<u>875</u>	<u>394</u>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
貸付金の回収による収入	15	14
投資有価証券の取得による支出	△1	△0
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	62
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△4	△9
有形固定資産の取得による支出	△371	△109
有形固定資産の売却による収入	—	35
無形固定資産の取得による支出	△31	△8
資産除去債務の履行による支出	—	△17
敷金及び保証金の差入による支出	△29	△11
敷金及び保証金の回収による収入	62	5
その他	△12	△23
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△374</u>	<u>△63</u>

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△256	△218
長期借入れによる収入	—	50
長期借入金の返済による支出	△244	△274
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△22	△59
割賦債務の返済による支出	—	△27
社債の発行による収入	1,067	—
社債の償還による支出	△1,022	△22
自己株式の取得による支出	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△478	△551
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	31	△214
現金及び現金同等物の期首残高	1,962	1,163
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,994	948



(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。